

農業と科学

1984 10

CHISSO-ASAHI FERTILIZER CO. LTD

創立15周年記念特集号

創立15周年を迎えて

チッソ旭肥料株式会社
代表取締役社長

三戸二郎

本年7月1日、当社は、お蔭をもちまして、創立15周年を迎えることが出来ました。昭和44年7月に、チッソと旭化成が、双方の肥料事業部門を統合し、事業の合理化を図ると共に、新時代の要請に応えるため、チッソ旭肥料を設立致しましてから、早くも15年経過したわけでございます。この間、皆様から温かいご支援とご鞭撻をいただいております。ここに改めて厚く御礼申し上げます。

顧みますと、当社発足当時の日本経済は、まさに高度成長の波に乗りまくっており、国際的な競争力をますます強めておりましたが、一方では、資本・貿易の自由化のテンポが一段と加速され、国際化という激動の時代に如何に対処するかが問われた時代でもありました。

化学工業界に於ても、国際競争力強化という観点から、エチレン30万トンに代表される大規模石油化学コンビナートが、相次いで稼働に入っておりまして、アンモニア工業も、日産能力1,000トンを基準とする第2次大型化計画が逐次完成し、コスト競争力を強めておりました。

このような大型化による合理化メリットにより、アンモニアをベースとする肥料の国際競争力は高まり、輸出も増加し、国内価格も低位安定しておりました。また、高度化成肥料も成長期にあり、農業の近代化要請に応じて参ったわけでございますが、その後、2回にわたるオイルショックの影響を受けて、ナフサ等アンモニア原料価格が極端に高騰し、更に、ニクソンショックによる円レートの切上げ、その後の円高傾向等により、誠に残念ながら、肥料業界は、非常に厳しい局面に立たされ、現在、業界をあげて、生産・流通面にわたる構造改善にとりくんでいることは、ご承知の通りであります。

当社はもともと、肥料事業の統合という合理化を目指して設立されたものではありませんが、当初の予想をはる

かに超える厳しい事業環境に当面し、之を打開すべく、生産・販売面について、体質の強化に努める一方、新時代に要請される新しい肥料の開発に全力を傾注して参りました。その成果の一つであるコーティング肥料、即ち被覆燐硝安加里(ロング、ハイコントロール)及び被覆尿素(LPコート)は、省力、省肥、増収、品質、安全性といった面で、現代農業の要請に応えるユニークな肥料としてご好評をいただき、お蔭さまで、市場も逐次拡大して参りました。本誌にも、諸先生から、これらの肥料について貴重なデータを多々ご紹介いただき、誠にありがとうございました。私どもと致しましては、現状に満足することなく、更に品質の改良と適正栽培技術の開発に努め、日本農業の進展に寄与致したいと念願しております。

その他、当社独自の肥料として開発しました樹木折込み専用の“グリーンパイル”も、お蔭様で街路樹、公園等の緑化分野で、ご好評をいただいております。また、昨年には、全農と共同開発を進めて参りましたパーミキュライト園芸床土材“与作”を上市し、果菜、葉菜、花卉等の健苗育成を目的として、そのすぐれた通気性、透水性、保水性等の理化学的特長を生かしながら、マーケットを開発中であります。今後ともよろしくご指導、ご支援下さいますようお願い申し上げます。

さて、本誌「農業と科学」はお蔭さまで、本号が第331号となりました。本当に息長く継続することが出来ました。本誌面の充実について、貴重な資料や文献をいただきました諸先生、及び長年にわたってご愛読下さっている皆様に、改めて厚く御礼申し上げますと共に、より一層のご後援をお願い申し上げます。

ここに皆様のご健康とご繁栄をお祈りし、創立15周年のご挨拶と致します。